

PRESS RELEASE

# 千葉県市原市教育委員会のGIGAスクール端末活用事例を公開

～「子どもたちを被害者にも、加害者にもさせたくない」、フィルタリングで叶える教員の想い～

情報セキュリティメーカーのデジタルアーツ株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:道具 登志夫、以下 デジタルアーツ、証券コード 2326)は、GIGAスクール構想における1人1台端末のセキュリティ対策として、Webセキュリティクラウドサービス「i-FILTER@Cloud」GIGAスクール版を活用した千葉県市原市教育委員会の導入事例を、12月22日に公開したことを発表します。

## 端末の適切な活用のためにフィルタリングを導入した教育委員会の事例をご紹介

全国の児童・生徒に1人1台端末と高速ネットワークを整備する「GIGAスクール構想」は、新型コロナウイルス感染症拡大によるオンライン学習の必要性が高まったことも相まって、多くの自治体で2020年度内に端末導入が完了しています。各自治体では、端末の学習での活用方法や、児童・生徒の利用ルールなど運用の詳細について検討し、学校現場でのICT活用を進めています。

このような中、2021年9月には東京都内の小学生女児がGIGAスクール構想で配布された端末のチャット上などでいじめを受けたことを苦に、自殺をするという痛ましい事件が起こったことが判明しました。子どもたちは人間関係やコミュニケーションについても発達段階であり、インターネットリテラシーも未熟な部分があります。こうした段階で、制限なくインターネット端末を利用させてよいのか、GIGAスクール端末の活用について課題が浮き彫りになっています。このような事件が再び起きないよう、子どもの安全を守り、安心して端末を活用できる方法はないのでしょうか。

2020年4月からデジタルアーツでは、GIGAスクール端末を児童・生徒が安全に使い、教員や保護者の皆さまが安心して端末を持たせることができるようWebセキュリティクラウドサービス「i-FILTER@Cloud」GIGAスクール版を提供しています。今回は、同製品を導入され、積極的にICT活用を進めている千葉県市原市教育委員会(以下、市原市)の活用事例を12月22日より公開します。

## 言葉やルールではなく仕組みで止められることが大事

市原市のICT環境整備に向けた取り組みは早く、これまで積極的にICT活用を進めてきました。2020年にやってきたGIGAスクール構想で、市原市はWindowsのタブレットPCを20,500台導入し、電子黒板やオンライン授業に必要な配信用機材なども整備。またセンター集約型ではなく、学校から直接つながるネットワーク環境も整備し、当初から持ち帰り学習も想定して「i-FILTER@Cloud」GIGAスクール版(以下、「i-FILTER@Cloud」)を導入しました。

GIGAスクール構想が掲げる「学びの個別化」や「21世紀型スキルの育成」を実現するためには、明確なビジョンが欠かせないとして、市原市は独自の段階的目標「ICHRスタイル」を打ち出します。市原市教育センター 指導主事 生田 勲氏は、「段階的に活用を進められるように4つのステージを示しました」と述べています。

フィルタリングについて生田氏は、持ち帰り学習をするなら「必須」だと考えていたようです。「子どもたちを危険から守るには、注意喚起の言葉やルールだけで止めるのはむずかしく、仕組みで止めることが重要だと考えフィルタリングを導入しています」(生田氏)。

### ICHiHaRa 市原市GIGAスクールの概要 市原市教育委員会 (記:11/18/20)

●学力を基礎にして、必要な情報を収集・分析し、それを活用して主体的に課題解決する子どもの育成

**「GIGAスクール構想」とは**

- ◆ Global and Innovation Gateway for All
- ◆ 1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する
- ◆ 多様な子どもたちを一人一人取り残さず、公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育のIT環境を実現する
- ◆ ICTの活用により全ての子どもたちの学びを保障する
- ◆ これまでの教育実践をITのナストミックスにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

**市原市GIGAスクールを支える仕組み**

- ◆ 1人1台タブレット (児童生徒、教員用)
- ◆ GIGAスクールの活用実践
- ◆ 児童生徒の活用実践 (画面共有など電子黒板との連携)
- ◆ 高速インターネット環境
- ◆ デジタル教材 (指導用教材/別教材)
- ◆ 校内ネットワーク、充電設備
- ◆ 自宅での活用実践
- ◆ AIドリル (学習状況に応じて出題される電子ドリル)
- ◆ Microsoft 365 (学校と自宅間の学習) 共有
- ◆ オンライン活用機器 (AR・VR) の貸出
- ◆ 研修等、各種支援
- ◆ オンライン研修用ビデオコンテンツ
- ◆ GIGAスクールアドバイザー (コーディネーター:各校を訪問し、各教員の課題を解決)
- ◆ イノベーター:市全体の新たな授業実践等の助言・支援
- ◆ 指導用実践 (指導用教材) での事前研究実践の展開
- ◆ デジタル化を活かした各種情報提供システム

**市原市GIGAスクールの考え方**

これまでの教育実践 × ICT → 新たな学習・授業の展開

1:1のデジタルを基本に ICT活用の自律性、主体的・対話的で深い学びの発現の促進を図る

**ICHiHaRaスタイル**

導入段階	1人1台タブレット環境に慣れる	システムシームレスな展開	
① Innovative Introduction	導入段階	1人1台タブレット環境に慣れる	
② Class Use	授業での活用実践	授業の中でより効果的な活用を進める (効果的に活用できる授業)	
③ Home Use	自宅での活用実践	自宅に持ち帰り、家庭学習に活かせる (反復学習、学習・復習、AIドリル学習) 新たな授業の構築、個別最適化を目指す (学びの個別化、21世紀型スキルの育成)	
④ Re-Innovation	新たな教育		

**新たな学習・授業スタイルの構築 (変更から日常へ)**

一斉学習	授業中でも一人一人の状態を効果よく把握できる	子どもたちの状況をかまえた、双方向型の授業の展開
個別学習	一人一人の考えを相互に学び合えて効果よく学ぶ効果的に共有できる	子どもたちが多様な考え、意見に刺激を受け、より深い学びの展開
個別学習	一人一人が個別に学びの過程を学習し、その進捗が記録される	子ども一人一人の学習状況に応じて個別最適化された学習の展開
家庭学習	AIドリルなどを活用し、一人一人が主体的かつ柔軟に学習が進められる	授業をより発展するための学習・復習を中心とした家庭学習の活性化

**スケジュール**

項目	R20-21				R2				R3				R4			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
授業研究 (単位、月/1)実施																
小中学校の活用実践																
GIGA4th+電子黒板による効果的授業 (授業の効率化、理解促進を図る)																
1人1台タブレット・全児童児童に電子黒板																
指導用教材の活用																
Innovation by Introduction (学習用コンテンツ等の展開)																
実践研究による実践																
新たな教育実践																

※ 記載は、予定は変更するものもあるため、現時点での予定です。

市原市の独自の段階的目標「ICHRスタイル」

1

## 何が危険なのかを身を持って覚えるには世の中も厳しいためフィルタリングの制御が必須

「子どもたちを指導するうえで、何が危険なのかを教えることは大切ですが、身を持って危険を覚えるには、世の中も厳しくなっています。すべての教員は“子どもたちを被害者にも、加害者にもしたくない”と思っており、子どもたちが危ないところにいこうとするのを止められることが大事です。『i-FILTER@Cloud』は、そこをしっかりとブロックしてくれるので安心です」(生田氏)。

具体的には、「i-FILTER@Cloud」の端末隔離機能が役に立っているようです。これは、「脅威情報サイト」などの URL にアクセスしたクライアント端末を「i-FILTER」経由でインターネット利用できないように隔離し、管理者へメール通知する機能です。もうひとつは、ストアアプリ内の SNS にも制限がかけられ、SNS への抜け道を防げることだといいます。「最近のストアアプリは SNS への共有機能を設けているものが多く、授業で使うには不安があります。そこで『i-FILTER@Cloud』で、アプリ内の SNS をブロックするようにしました」(生田氏)。

## 「i-FILTER@Cloud」の安心・安全な環境と充実した整備で、持ち帰り学習が加速

同市では GIGA スクール構想の当初から持ち帰り学習を視野に入れ、インターネット環境のない家庭用にモバイル Wi-Fi ルーターを整備。さらに、持ち帰り学習で使用するデジタルドリルには、教員が宿題を出しやすいように、オフラインで取り組めるものを選択。その結果、GIGA スクール構想の初年度にもかかわらず、市内 62 校のうち、ほとんどの学校で持ち帰り学習が実施され、デジタルドリルへのアクセス数が日本一を記録した月もあったといいます。

市内のある中学校では、生徒総会の資料を PDF ファイルで作成し、Microsoft Teams で全校生徒に配布。生徒の投票を Microsoft Forms で行うといった取り組みもありました。生田氏は「やってはいけないことを教えることも大切ですが、便利な使い方をしていけば、リテラシーも向上していくと感じました。子どもたちが端末を思いきり使えるように、『i-FILTER@Cloud』がさまざまな危険を水際で食い止める役割を担ってくれています」と述べています。

市原市では今後も ICT を活用した先進的な学びに多く取り組んでいく考えです。たとえば、修学旅行ではタブレット端末とモバイル Wi-Fi ルーターを持参し、生徒たちは Teams を通じて教員と連絡を取り合いながらグループワークに挑戦します。一方で、教員の ICT 活用スキルの向上には、引き続き力を入れていきたいと語る生田氏。「先生方の間で利用が進んでいる YouTube の活用範囲を広げていきたいですね。『i-FILTER@Cloud』の Web サービス制御を利用すれば動画単位で視聴を許可することもできるので、こうした機能を上手く活用して、先生方がどんどん ICT を使えるようにしていきたいです」と語ってくれました。

■ 千葉県市原市教育委員会導入事例の全文はこちら ▶ <https://www.daj.jp/bs/case/case88/>

## デジタルアーツの「i-FILTER@Cloud」GIGA スクール版特別ラインアップ

### いじめに関する書き込みを禁止する「POST 制御」や「Web サービス制御」のほか、「子ども見守りシステム」も搭載

デジタルアーツの Web セキュリティクラウドサービス「i-FILTER@Cloud」GIGA スクール版は、GIGA スクール構想における 1 人 1 台端末を、教育の現場で安全にかつ円滑な学習ができるよう利用いただくために改良した学校用フィルタリングサービスです。国内導入シェア No.1<sup>※</sup>の「i-FILTER」におけるフィルタリングデータベースを基に、学習の現場に合わせたきめ細やかなフィルタリングルール設定が可能です。

また、文部科学省が GIGA スクール構想で推奨する 3OS すべてで、児童・生徒による裏掲示板や SNS サイトへの書き込み、端末搭載のカメラで撮影した写真のアップロードを制御する「POST 制御」機能が利用できます。これにより、児童・生徒が端末を私的に利用し、学習に関係のない使い方やいじめなどにつながる書き込みを防ぐことができます。また、Web サービスごとに「ログイン、書き込み、アップロード、ダウンロード」等の機能を制御する「Web サービス制御」や、生徒が自分の端末から自殺関連サイトにアクセスした際、「i-FILTER@Cloud」でブロックすると同時に指定された教職員もしくは教育委員会へメールでアラートを通知する「子ども見守りシステム」など、子どもの見守りや悩みにいち早く気付くことのできる、教育現場をサポートする機能も備えています。

「i-FILTER@Cloud」GIGA スクール版 ▶ <https://www.daj.jp/es/lp/GIGA/>

## デジタルアーツ株式会社 概要

Web、メール、ファイルなどのセキュリティソフトウェアの提供を核に事業展開する情報セキュリティメーカーです。  
1995年の創業以来、「より便利な、より快適な、より安全なインターネットライフに貢献していく」を企業理念とし、有害情報の閲覧を制限するWebフィルタリングソフトを開発、以来企業・公共・家庭向けに情報セキュリティ製品を提供しております。

東京都千代田区大手町 1-5-1 大手町ファーストスクエア ウェストタワー14F

URL: <https://www.daj.jp/>

<本リリースに関するお問い合わせ>

※新型コロナウイルス感染症拡大に伴う在宅勤務実施中のため、お問い合わせ先は下記とさせていただきます  
デジタルアーツ株式会社 広報担当 山田 (TEL : 090-1555-7254 / E-mail : [press@daj.co.jp](mailto:press@daj.co.jp))

- ※ デジタルアーツ、DIGITAL ARTS、i-FILTER、info board、Active Rating System、D-SPA、NET FILTER、SP-Cache、White Web、ZBRAIN、クレデンシャルプロテクション、ホワイト運用、m-FILTER、m-FILTER MailFilter、m-FILTER Archive、m-FILTER Anti-Spam、m-FILTER Anti-Virus、m-FILTER File Scan、Mail Detox、m-FILTER EdgeMTA、EdgeMTA、FinalCode、i-フィルター、DigitalArts@Cloud、Desk@Cloud、Desk、D アラートおよび D コンテンツその他の弊社・弊社製品関連の各種名称・ロゴ・アイコン・デザイン等はデジタルアーツ株式会社の登録商標または商標です。
- ※ その他、本書に記載されている各社の社名、製品名、サービス名およびロゴ等は、各社の登録商標または商標です。